1. 概要

「久しく待ちにし主よ とく来たりて」、(〈英〉 O come, O come, Emmanuel、〈ラ〉 Veni, Veni, Emmanuel)は、中世以来歌い継がれてきた待降節(アドベント)の讃美歌(クリスマス・キャロル)です。

原曲は、中世フランスの「Veni Emmanuel」という聖フランシスコ女子修道会行列賛歌 (processional) で、旋律も和声も厳かな雰囲気醸し出しています。

讃美歌(1954年版)94番では、歌詞は12世紀ラテン語聖歌、曲は13世紀とありますが、諸説あります。

この聖歌は、ポルトガルの首都リスボンの国立図書館の典書にあったのが、19世紀にイギリスの司祭ジョン・メイソン・ニール(1818-1866)と、友人で合唱指揮者のトマス・ヘルモアによって発見され、歌詞の英訳と曲の編曲がされました。

ニールによる翻訳では、出だし部が「Draw nigh, draw nigh, Emmanuel」となっていたのですが、その後「O Come, O Come, Emmanuel」に変更されて以後、アドベントの時期に広く愛唱されるようになりました。

Emmanuelは、「インマヌ」(私たちと一緒に)と「エル」(神)とが組み合わせさった言葉です。英語訳歌詞と聖書によっては、EmmanuelではなくImmanuelとするものがあります。

2. アドベント

アドベント(降臨節、待降節)は、6世紀になってクリスマスの準備期間として西方教会の教会暦に取り入れられました。アドベントとは「到来」という意味ですが、キリストの初臨と再臨の両方を待ち望んで使われます。すなわち、

- (1)旧約の信仰者たちは、バビロン捕囚の悲哀と苦悩を耐え忍びながら、預言者たちを通して与えられた救いの約束、メシア(救い主)の来臨(初臨)を待ち望んだのです。私たちはその彼らと一つ思いになり“追体験”しながらクリスマスに備えます。
- (2)主イエスが最後の審判者として来て下さる再臨を待望し、再臨を迎える心の備えを新たにします。

専らこのような時節に愛唱される讃美歌の一つが「久しく待ちにし」で、今ではこの歌を収録しない讃美歌集は殆ど無いそうです。それだけに、英語訳歌詞も日本語訳歌詞も様々です。

以上